ふと振り返った時に・・・

when i just looked back...

hiromum

はしがき

インターネットが普及する兆しが見えたのは、1995年、あのウィンドウズ95が発売された時であった。
その頃から僕はホームページの制作には興味をもっていたが、当時のインターネットは接続の設定など今ほど簡単ではなかった。確か無料のサーバなどが使えるようになったのは、それから数年たってからであった。
僕がはじめていわゆるホームページなるものを作ったのは1999年であったと記憶している。FTPで初めてサーバにファイルをアップし、そして自分が作ったWEBが、インターネットにつながったパソコンから見ることが出来た瞬間の感動は、今も忘れられない。
それから数年後ブログなるものが登場し、ホームページを運営しながら、2003年ごろからブログも書くようになった。そのブログもどのサービスを利用するかの迷いや、サービスの閉鎖や統合などがあって、紆余曲折があり、やっと今のワードプレス（wordpress.com)に落ち着いた。
今のワードプレスには2005年頃からのアーカイブがあります。それ以前の数年間分は、どこかに消滅してしまった。
本書は振り返ってアーカイブを見たとき、印象に残るもの取り出してみたものです。当時のものに若干の修正や改定を加えたところもあります。
テーマ（章）別に並べています。古いものと最近のものでは5〜6年のスパンがあります。
近年特に世の中の変化は激しく大きい。
ブログはそんな世の中の変化をとらえているかどうか、大変気がかりです。

多重録音？

多重録音てどうすればできるんだろう。
たとえば一人でﾍﾞｰｽでリズムを録音し、それにウクレレやギターでコードを重ねる。
さらにその上にブルースハープのメロディをのせる。
このような多重録音（一人演奏）が簡単に出来ないだろうか。
最近のプロの歌手はオーケストラの録音を聞きながら自分の歌を重ねる方法でCDを作成するとか。
素人にも簡単に似たようなことが出来ればいいのだが。
一人で3パートを楽器で演奏して、それらを重ね合わせて3重奏になるような録音が出来ないものか。
―というようなことを少し前に書いた。
いわゆる一人多重録音。
調べてみると、結構そのような目的のためのフリーソフトがあった。
その内の一つで早速試してみた。
しかし結構雑音がはいって、思っていたレベルには達しない。
ソフトの選択、使い方に慣れなければいけない。
それ以上に演奏技術を上げなければ。
成功への道のりは遠い。
（2006/01/25,30)
追記：
多重録音の為のソフトはいろいろあるようです。
しかしフリーでとなると限られてきます。期待と現実にかなりの開きがあります。
最近のデジタルレコーダーは、例えば楽器の演奏を録音した後に、その録音を再生しながら歌を重ねて録音できるいわゆるマルチトラック録音が可能なものがあります。
音質もそこそこだから、デジタルレコーダーが素人には手っ取り早い。
iPhoneのボイスレコーダーもそこそこ大丈夫のようだ。

アメリカ橋

恵比寿駅の近くに青い鉄の橋がかかっている。
恵比寿南橋といっているがこれが通称「アメリカ橋」というそうだ。
明治の終わりころ、近代化の象徴としてアメリカの万博の展示物であった鉄の橋を買って設置したということで、積極的な都市建設のなごりのような存在。
最近40年ぶりに昔の仲間と会う機会があったが、その時仲間の一人が歌ったのは山川豊の「アメリカ橋」。
大変上手だったので印象に残っている。

//風が足もとを　通り過ぎてゆく・・・・・・
・・・・・・
アメリカ橋のたもと・・・
・・・・・・・熱かった青春。//

他にも同名の「狩人」の歌があるらしい。

日本が世界の仲間入りしようと、必死になっていたころの象徴である「冷たくて、かたい鉄の橋」が
時にはラブソングのキーワードに使用されていたということだ。

もう一つパナマ運河にも北米と南米を結ぶ「アメリカ橋(The Bridge of America) 」と呼ばれる橋があるそうだ。
（2006/07/27）

関連ブログ「昔の仲間たち」
むかし僕は学生時代に、あるバンド（DUHS）に入っていた。
親しかった数人に声をかけて京都で会う段取りとなった。
30～40年ぶりであった。
60も半ばになり、みんなかなり変わっているだろう。
そしてその出会いは予想していた以上に、衝撃的であった。
今出川のキャンバスを歩いて、御所の玉砂利を踏んで、青春時代を振り返る。
5人の仲間たち、永い時を経て見かけは変わってしまった。
けれどももちろんそれぞれに当時の面影があり、その面影の扉を開けて、
40年前にタイムトリップする。
お互いに当時の音楽的感覚（？）を失わずに、40年を生きてきているように感じる。
きっとこれからもそうであろう。
京都も古き良き時代の面影を残している一面と、どんどん変化している一面とがある。
今出川と祇園と三条通りで語り過ごした一夜があけて、現実に戻った
（2006/06/05）

枯葉　Autumn Leaves

枯葉
原題は"Les Feuilles mortes"といい、イブ・モンタンが歌ったのが最初のようです。
あまりヒットしなかったらしいが、シャンソン歌手ジュリエット・グレコが歌ってヒットした。
短調のスローバラードで 世界各国語で歌われた。
ビング・クロスビー、ナット・キング・コール、フランク・シナトラなどなどが歌った英語版
"Autumn Leaves"もヒットし、ジャズのスタンダードナンバーとなっている。

ウクレレエクササイズの動画は下記より。
http://www.youtube.com/watch?v=_8N0uj8ZX04
（2007/01/28）

もうひとつウクレレエクササイズを追加。
モーツアルトの子守唄。おなじみの静かな3拍子の曲。
ギターやウクレレには結構合っている。
この曲、本当はモーツアルトが作ったのではないということらしいが。
そんなことは問題でなく、子守唄の雰囲気が出ているかどうかが問題だ。

作詞　ゴッター
作曲　フリース
訳詞　堀内敬三

１．ねむれよい子よ　庭や牧場に
　　鳥も羊も　みんな眠れば
　　月は窓から　銀の光を
　　そそぐこの夜
　　ねむれよい子よ　ねむれや
２．家のうちそと　音はしずまり
　　棚のねずみも　みんな眠れば
　　奥の部屋から　声のひそかに
　　ひびくばかりよ
　　ねむれよい子よ　ねむれや
３．いつも楽しい　幸せな子よ
　　おもちゃいろいろ　うまいお菓子も
　　みんなそろって　朝を待つゆえ
　　夢にこよいよ
　　ねむれよい子よ　ねむれや

YouTubeで演奏の動画が見られます。下記よりどうぞ。
http://www.youtube.com/watch?v=emFKOmh3OD4
（2007/01/20）

アメイジング・グレイス

アメイジング・グレイス
作曲者不詳、作詞ジョン・ニュートン
PTE（パワータブエディター）でウクレレ譜を作成し、PCの演奏にスタンダードウクレレでコード（リズム）を重ね、
さらにテナーウクレレでソロパートを演奏しています。
youtubeへアップしていますので、下記より。
http://www.youtube.com/watch?v=bHloVNhK6go
（2007/03/05）

写楽

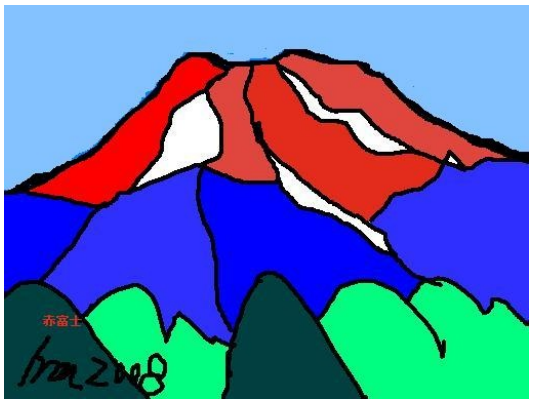
写楽は謎の浮世絵師と言われています。
何しろ10ヶ月で150点ほどの浮世絵を描いたといわれています。
専門的には顔の形、目の描き方、手の形など写楽としての特徴があるようですが。
ここではあまりそんなことにはこだわらず、福島県の純米大吟醸「写楽」を真似て描いてみた。
下にはその特徴である組み合わせた両手があるのだが、それも省略し顔頭部を描く。
（2006/09/30）

追記：
「サックスの音が聴こえる？」
ショウウィンドウに飾られていた絵をイメージしながら、描いてみた。
はたして、サックスの音色が聴こえてくるだろうか。（2008/05/12）

hm
2008

パソコンで絵を描く

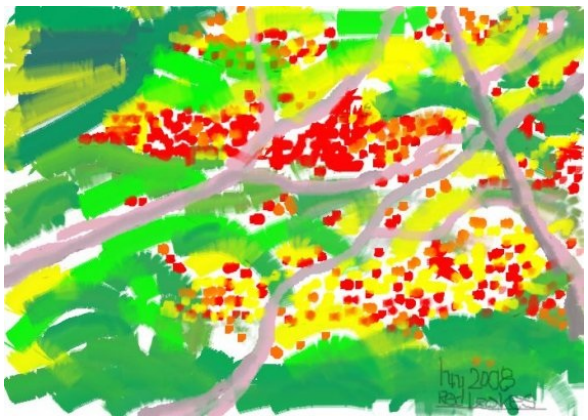
PC　Drawing　とでもいうか。
ソフトはいろいろあるようだし、ペン書きタブレットなど使えば描きやすいかもしれない。
もっとも原始的にWINDOWS付属のペイントとマウスで描いてみた。
題して赤富士。
塗り絵的な、あるいはステンドグラス的になってしまったが・・・。
（2008/05/30）



追記：
「椿の生け花」PC画（2008/11/23）

「リンゴ」PC画
「りんご」という和田宏子氏の油絵(１９９６年）があります。
こういうのはどんなジャンルといえるのだろうか。
油彩モダンアートとでもいうのでしょうか。
その印刷物がカレンダーにあり、それを切り抜いてあったのを見ながらPCで、絵を描いてみた。
それがなんと・・・・、さらにモダンになってしまった感がある。（2008/09/04）

「紅葉」PC画
金剛山の紅葉をPC画にしてみた。



雰囲気は出ているだろうか。
PC画（私はかってにそう呼んでいる）といってもいろいろある。
たとえば写真をソフトで一気に絵画風に変換してしまうものもある。
しかしこれは変換のソフトがすべてで、絵画の基本である、形状、配置、着色等の要素に作製者の意思が入り込む余地が少な過ぎる。
（あるいはほとんど無い。）
もう一つは、いわゆる筆や鉛筆などを用いて、紙やキャンバスなどに描くかわりに、マウスやペンタブレットを用いて描画ソフトで描く方法です。
この場合は、単に筆や鉛筆が、マウスやペンタブレットに変わっただけで、作製者の意思は充分反映される。
だから、出来上がったPC画は、従来の油絵、水彩画、鉛筆画・・・等々と表現方法は変わっているが、なんらその価値は変わらない。
・・・と私は思っている。（2008/11/03）

ゲゲゲのキタロー

水木しげる妖怪図鑑という展覧会が兵庫県立美術館で開催されている。
ドラマ「ゲゲゲの女房」も本日で終了した。
ゲゲゲのキタローの関連キャラクターをいれて一枚画に仕上げてみた。
勿論暇つぶしの物まね画です。（2010/09/15）

追記：
「ドラ猫」
ドラマ「ゲゲゲの女房」に出てきたドラ猫（2010/08/18）

2010/hm

陶器のゴミ箱？　灰皿？

１１月の終わりころ天王寺の一心寺訪ねたことがあり、その時は知らなかったが、一心寺に８世市川団十郎の墓があるらしいことを聞いた。

８世市川団十郎は江戸後期を代表する人気歌舞伎役者であったが、その生涯は悲劇的であったらしい。写真はその墓石。

他にも歴史上の有名人が一心寺に眠っているらしい。

その一心寺に置いてあった陶器の灰皿、あるいはゴミ箱かもしれない。その表情が印象的であったので、油性ペンと水彩で描いてみた。（2010/12/27）

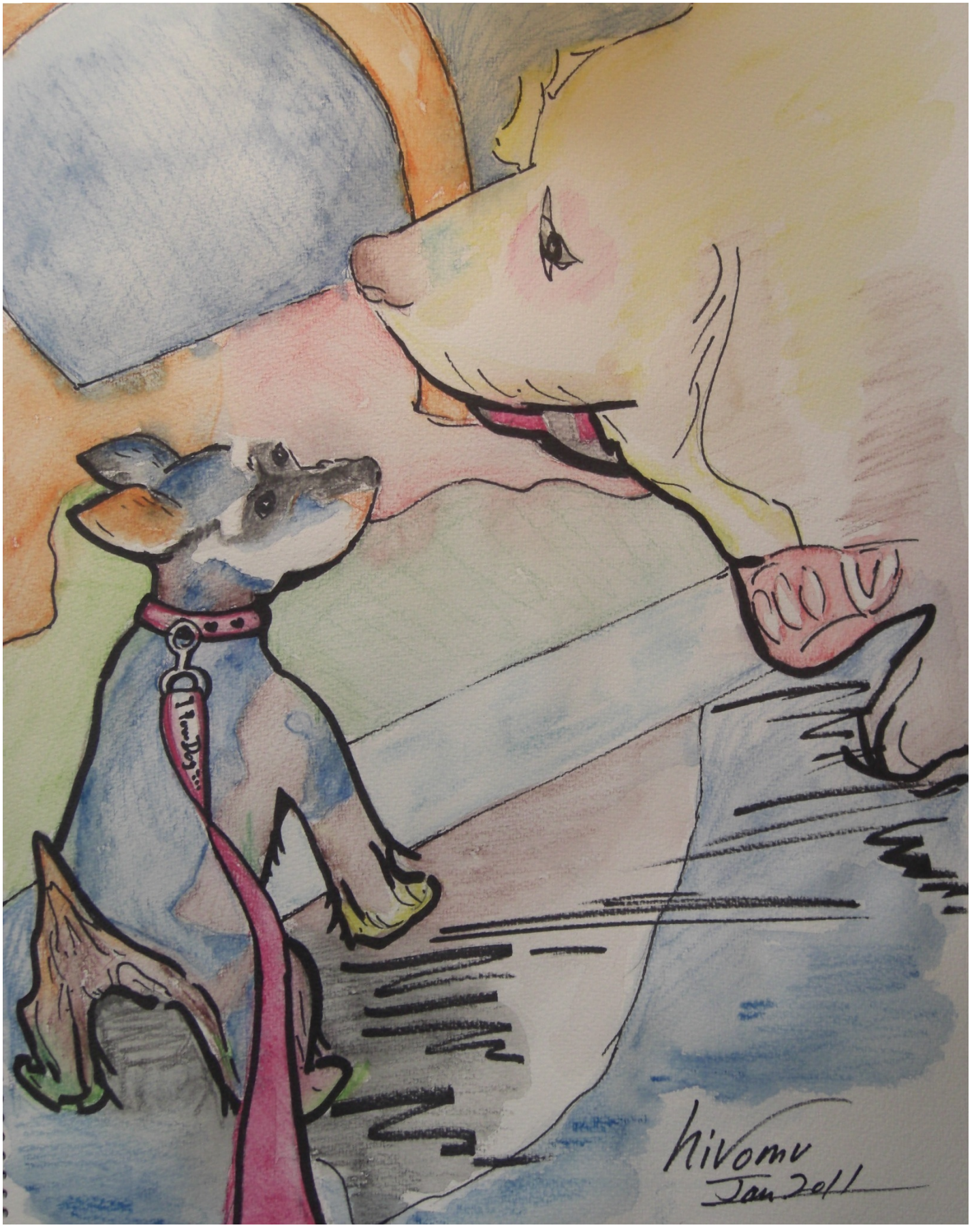
一心寺にある8世市川団十郎の墓

ゴミ箱　一心寺

散歩

昨年の散歩の写真ををもとにして、水彩カラー鉛筆と油性ペンにて作成。

小さいハルと大きいユーちゃんがうまく表現できただろうか。（2011/01/16）



ガーデンミュージアム比叡

比叡山の山頂にガーデンミュージアムがあって、有名画家の陶板（版）画が展示されています。

陶板画は原画を撮影して転写し色付けした陶板を焼成して鮮やかな色を出したもので、それを組み合わせて一つの絵画としたものです。変色も腐食もしないので永く保存することができ、焼物と芸術の複合した新たな芸術ジャンルと言われているようです。

ゴッホ、モネ、ドガ、ルノワール、モリゾなどの有名作品の陶板画がたくさん展示されていて壮観です。ただし本物とはやはり違って、第一印象は結構別物の感じが強い。これは仕方のないことか。（2011/04/21）

ガーデンミュージアムスライド

脳とコンピュータ

人間の脳とコンピュータ結ぶ実験があるそうです。
例えば障害を持った人がコンピュータを使用する場合、メールを開きたいと考えることによってメールを開くことが出来るらしい。
手足の不自由な人も、自分で考えるだけで、義手や義足を動かせるかもしれない。
コンピュータのチップを脳に埋め込んで、神経系をつなぎアウトプットをうまく利用すれば不可能ではないだろう。
この場合の脳とコンピュータのインターフェイス（接続）はどうなっているのだろうか。
実験は結構進んでいて、実用化もそう遠くないという話。
神秘的ではあるが、結構興味深い。
（2006/02/08）

ITは進歩したが・・・

90年代から現在に至る十数年、PCとインターネットの発展が著しい。
90年代初めウィンドウズがやっと一般的になり始めようとしたころ、2006か2008年ころまでには光ファイバーが普及し、誰でもインターネットに接続できるようになる。という希望のある話をちょっと先見のある人はしていた。
そして今まわりを見ると、そんな予測を充分上回るITの発展である。
当時そんな話を若い人（私の子供たちも含めて）にしても、「そう？それで？」程度の答えしか返ってこなかった。
ふつうの大人達も、わからないから興味を示さない。
そんなことを言っている間に、PCはどんどん進化し、光ファイバーもどんどん家庭に入り込んでみんながインターネットを利用するようになった。
「そう？それで？」といっていた若者は（私の子供達も含めて）当たり前のようにPCを使っている。
あまり理解出来なかったふつうの大人達も、なんらかの形でPCにかかわらざるを得なくなった。
そして仕事も、会社も結果として当時とは大きくかわってしまった。
しかしそれで、PCの進歩に比例して世の中はよくなってきたのか。
けっしてよくなったとは言えない。だんだんわるくなっている面もある。
「そう？それで？」という意味は「それで世の中はよくなるの？」という問いかけであったのか。
この問いに対する答えはすぐには出せない。
（2006/03/10）

→

分散コンピューティング

宇宙人を探そうというプロジェクトseti@homeに参加して半月くらい過ぎた。
その間BOINCというソフトで、送られてきたデータを計算して結果を送信元（カリフォルニア大学）に送っていた。分散コンピューティングは順調に進んでいる。
ところが少し前から、NO　WORK　という表示が出て、データは来なくなった。供給すべきデータの収集が少し遅れているのかもしれない。
ということで、別のプロジェクトにも参加することにした。
eienstein@homeというプロジェクトで、ミルウォーキーにあるウィスコンシン大学のアルバートアインシュタイン研究所が推進する自転する中性子星（パルサー）を探索するプログラムです。同じくBOINCを使って重力波検出器が出力するデータを分散コンピューティングします。
そして昨夜より開始した。
今朝チェックすると昨日までNO　WORK　であったseti@homeに仕事が入っていた。
そんなわけで、今二つの宇宙物理学のプロジェクトが仲良くBOINCにかかり計算が進行している。
（2006/09/12）

その後：
（１）「宇宙人を探そうという」という　seti@home　と(2)「重力波を探せ」という　Einstein@home　の二つの宇宙物理学のプロジェクトがBOINCという分散コンピューティングのソフト上で計算が進行している。（以前に紹介したとおり）
（１）は宇宙からの電磁波をから規則正しい信号（宇宙人からのコンタクトと思われる）が見つけられるかということで、
（２）はアインシュタインの一般相対性理論によって予言された重力波が実際に存在することを証明しようとしていることで、パルサーからの信号を分析し、重力波による歪を検出しようという試みらしい。
二つのプロジェクトの遂行するために、pcのよる地道な計算が進行している。
（2006/09/19）

重力波を探せ
Einstein@Home　という分散コンピューティングのプロジェクトに参加していることは数日前に書いた。
実際はカリフォルニア工科大学のレーザー干渉計重力波検出器（LIGO：Laser Interferometer Gravitational wave Observatory)
から得られるデータを手分けして解析計算するというプロジェクトです。
重力波の存在は一般相対性理論で予言されているようですが、まだ直接観測されていないようです。
連星パルサーの観測により間接的にその存在が証明されているということですが。
要するにパルサーからの信号を重力波検出器をとおした結果を分析し、歪を検出しようということです。
回転するパルサー（中性子星）からは電磁波が放射されるが、重力のバランスが崩れたパルサーであれば、放射する電磁波は
重力波によって歪が出るということらしい。
果たして重力波の存在が証明できるのか。
（2006/09/28）

驚愕のリナックス

リナックスとは。
と突然いわれても、コンピューターのOSだとは知っていても、説明できるほど中身はわかっていない。
■すこし初歩的なことを整理してみる。
1990年前後はコンピューターのいろんなOS（オペレーティングシステム）が開発されていた。
日本でもあの有名な坂村教授が1980年代に提唱したTRON（トロン）がある。
いわゆるどこでもコンピュータのユビキタス社会を実現するのに適したOSとし、華々しく登場したがアメリカの政策的な壁に阻まれたという有名な話がある。
フィンランドの学生がUNIXというOSと互換性のあるLinuxを開発したのは１９９１年といわれています。
当初からフリーでオープンソースで誰でも使えることを目指していたため現在まで徐々にシェアーを伸ばしている。
マックとウィンドウズが登場したのは1993年頃か。
マックにするかウィンドウズにするか、迷った人も多かったと思うが、確かにマックの方が操作性は良かったように思う。
アイコンによって操作するマックのアイディアをマイクロソフトはパクッたなどと評価する人もいた。
がそれ以後マイクロソフトのウィンドウズが世界を席捲してしまった。
■ウィンドウズがITの発展に寄与したことにケチをつける気は無いが、マックやUNIXやLINUXやTRONもそれぞれの分野で使われてきている。
特にLINUXやTRONはシンプルさゆえに小型機器に使用されることが多い。携帯電話やインテリジェント家電やロボットなどにも使われる。
わたしが製作中のホビーロボットID-01にもLINUXが使用されている。
■これは私見だが、Windowsはその性能の割には重過ぎるし高価すぎる。だけど普及率が結構高いから使わざるを得ないという感じがする。
LinuxはWindowsに比べて軽いし、何よりも安い。基本的には無料だ。アプリケーションもほとんどフリーソフトが利用できる。しかもハードにそれほど高仕様をもとめない。
普及率がまだ低いからビシネス使用で不便が生じるかもしれない。
Linuxはエンジニアが使用している例が多いらしいが、今後他のビジネス使用も増えるに違いない。
■これからのOSはシンプルでオープンソースであるべきだ。
シンプル　イズ　ベスト！
添付の写真と動画の3Dデスクトップ はLinuxKunoppix。WindowsVistaはAero（透明性）ディスクトップをキャッチフレーズにしているが、もちろんそれ以上のAero（透明性）や3DはLinuxで可能。驚愕のリナックス。
（2007/06/16）

WEB2.0

WEB2.0についてはこのブログでも2006年の8月ころに書いたことがある。
インターネットが1993年頃から普及し始めて、10年くらいはいわゆるWEB1.0の時代でその後WEB2.0の時代に入ったということ。
その意味は広範で一口には言えないが、ある切り口で見ると、ウェブが静的から動的に変わりつつあるという見方が出来る。
時代の流れに乗り遅れてしまうわけにも行かないので、ウェブを静的な物から多少動的なものに変革させようと試みている。
動的ということは、インターラクティブ（双方向性）という意味も含んでいる。
そこで随分前から思っていたWEBアプリケーションを数件作成した。これによって動的な要素が少しは加わったのかな。
WEBアプリといってもそれほど複雑なものではない。
詳しくは省略するが、ｐｈｐ5とそれにバンドルされているsqliteというdbを使用してcodingしレンタルサーバにアップした、という説明になるのか。
以前にExcuteとかいう方法で、いわゆる自宅サーバ式にWEBアプリを発信したことがあったが、これにはいろいろ問題があった。
そのひとつはサーバとしてPCを24時間稼動さすのは結構無理がある、ことがわかったこと。
今回はレンタルサーバに依存したので当然24時間稼動に問題が無い。
不慣れなWEBアプリの開発だが、動いたときの達成感が何にも変え難い。
（2008/04/11）

WEB2.0という言葉は一時的に流行したが、今日では（2011）ほとんど死語に近くなってしまった。

パソコンのクラッシュ

仕事で使用しているPCが突然立ち上がらなくなった。
お盆休みで数日の休みのあと、立ち上げてときに、途中から前に進まなくなった。
仕方がないから、強制終了して再立ち上げをしたが、今度はエラーが出る。
”・・・・a disk read error occured・・・・”
DELLのサポートに聞きながらチェックしたが、結局ハードディスクがクラッシュしているということになった。
普通なら、セイフモードで立ち上げて修復可能であるが、またデータ救出の方法もあるが、HDがいかれてしまうとデータを取り出すこともできない。
原因は？といっても特定できない。普通は強制終了などで、HDが破壊することはない。ということだから何らかの欠陥がHDDにあったのか。
翌日代わりのHDDが送られてきて、エンジニアがきて取り替えてもらった。
OSやドライバーをインストールして購入時と同じ状態に戻ったが、本年4月以後のデータはなくなってしまった。
3月ころまでは、別のHDDにバックアップしていたので、たぶん使えるだろうが・・・。
HP（ホームページ）に関するデータはサーバから取り込めばいいが、WEBアプリの作成環境が消えてしまったので、再設定しなおさなければならない。
結構面倒なことが多い。
PCは一度設定しておくと便利に使えるが、いったんその記憶がなくなると、元に戻すのが大変なことに気がつく。
たよりにしていた人がいなくなって、また新しい人に教えるのと同じことだ。
データをどうして守るかを考えるのは、最終的にはその使用者になるのでしょう。
（2008/08/20）

リモートディスクトップ

リモートディスクトップとは、簡単に言えば、たとえばオフィスにあるPCを、自宅のPCから操作出来るようにすることです。
操作される側（例えばオフィスのPC、サーバー）と操作する側（例えば自宅のPC、クライアント）にそれぞれリモートディスクトップが可能になるような設定が必要です。
■サーバー側のOSはwindowsXPProfessionalが必要で、リモートアクセスを許可する設定をする。
■サーバー側のルーターでリモートアクセスのためのポートを開放する。同時にIPアドレスを固定する。
これはPCからの操作で設定は可能です。
■クライアント側はwindowsXPHomeでもよい。
■クライアントPCのリモート接続を立ち上げて、（グローバル）IPアドレスとアカウントをいれ、最後にパスワードを入れれば、リモート接続され、
サーバーのディスクトップがクライアントに表示される。
■後はクライアントから自由に操作可能です。
———————————————-
サーバー側のルーターのポート開放、IPアドレス、アカウント、ファイアウオール設定などに不備がなければ、リモート接続は出来るはずです。
但しセキュリティーには十分きをつけて、—というのが私の経験談です。
（2008/09/25）

グーグルアナリティクス

Google Analyticsとは、要するにWEBサイトのアクセス解析だ、と理解する。
以前はアクセス解析専用の高価なソフトを使ったり、レンタルサーバ屋さんが用意している解析ツールを用いて訪問者分析をしていた。
今でもほとんどの人はそうしていると思うが・・・。
googleはそれを無償で提供してくれる。
google analyticsのサイトに管理者登録して、自分の管理しようとするサイトのurlを登録（数個OK）し、
トラッキングコードを入手する。その後そのサイトのWEBソースの特定のところに、そのトラッキングコードを貼るだけでOK。
24時間後には何らかの分析結果がレポートされる。
ブログへの適用も本来はOkだが、ソースをさわれないことが多いので、その場合はブログに付属の分析ツールを利用したほうが良いかもしれない。
いわゆるWEBマーケティングといわれるものの一つで、アクセス結果を見ながらWEBを改良していくということです。
「フリーで誰でも」がgoogleの特徴で、Google Analyticsも最近よく言われるクラウドコンピューティングのコンテンツの一つかと思う。
（2009/08/06）

jimdoはhtml5なのだ

実はjimdoというホームページ作成のツールで、試しにHPを作成してからもう4カ月ほどたった。

使い方はいたって簡単で、しかも出来映えはかなり良い。いわゆるプロっぽい感じの画面になる。無料で５００MB位の容量があるらしいので、当面は十分使えそうだ。

なによりも今流にいえば、クラウド型で、ネットにつながっていれば、どこからでも簡単に更新出来る。ｈｔｍｌやftpなどの知識も必要ない。サーバなど意識し無くてもよい。ブラウザさえあれよい。

ｈｔｍｌがｈｔｍｌ５に変わっていくという話が出ている昨今、ｊｉｍｄｏはどうかと思ってソースを見ると、書き出しがシンプルで<!DOCTYPE html>でなんだかhtml５を思わせる。

やっぱりｈｔｍｌ５が採用されているのだ。使用者はそんなソフトのバージョンなど意識しなくてもどんどん使用できるところがクラウドらしい。

ヒロ・マツシタのバーチャルカフェ＆バー

（2011/03/01）

追加：　「jimdoでjqueryを使う」

なんだかマニアックなタイトルになってしまった。

すこし説明を加えると、jimdoとは簡単にHPが作成できるホームページ作成ツールで、jqueryとは、HPに動きを加えるための簡単なプログラムをたくさん集めた保管庫のようなもの（ライブラリー）と理解したらよいのでしょうか。要するにHPも静的な画面ばかりでは面白くないので、すこし動きのある画面にして、見る人の興味をひこうかということなのです。

jimdoを使えば簡単に見栄えの良いHPがつくれるのですが、普通はjqueryなどは使用しないことになっています。それを何とか使えるようにしようとすると、すこし手を加える必要があります。例えば画像をフェードインして表示する場合。

1：まずjqueryを読み込む　2：実行するjavascriptのコードを書く　3：希望の場所に画像を置く

事が必要です。

1：2：はヘッダーの編集を用いて、3：はガシェット/ｈｔｍｌを使って、それぞれコードを書き込みます。画面のソースを確認して、間違いなくかければ勿論画像はフェードインして表示されます。コードが正確でないと、jimdoのjavascriptに影響して、不具合が出ることもあるので注意が必要です。でもなんとかtrial&errerで成功出来るはずです。下記を参考にしてください。（2011/04/01）

http://hiromum.jimdo.com/

http://liyuanslab.jimdo.com/

サントリーレディースオープン

6/15に行われたサントリーレディースオープン最終日。
18番ホールで大山志穂プロと上田桃子プロが　-7　で並んでいた。
セカンドショットは大山が先に打ちピン10ｍくらいにオン。
続く上田のショットはグリーンをとらえたが傾斜とバックスピンでこぼれてしまった。
この時点では大山がやや有利の状態であった。
ピンまで20mくらいの上田のアプローチショット。通常ならそれほど難しくはないだろうが、優勝を左右するショットである。
最初の1/3はピッチであとの2/3はラン、ピッチアンドランでピン50ｃｍに寄せた。8または9アイアンのような感じに見えたが、
実際はピッチングウェッジだったようだ。
大山も最初のパットを約1ｍに寄せ、誰もがプレイオフと感じた。
上田が優勝のパットを決めたとき、私はあの20ｍのピッチエンドランが大山の心に微妙な動きを与えたと思った。
あの時点での少々不利な状況からはなった一打が優勝を決める一打になったと思った。
一週間後の今日の新聞に、上田桃子プロの記事があった。あの時私が感じたようなことが書いてあった。
やはりどう打とうか迷ったそうである。だけど時間をかけて芝を読んでいると、最初はわからなかったラインが見えてきたらしい。
どこに落としてどう転がせるか、が見えたということを書いていた。
この時点で勝利の女神が微笑んでいたのかもしれない。
先日のテレビであの張本氏が上田と大山二人に「あっぱれ」だといっていたが、私も同感である。
（2008/06/23）

全英オープン2008

リヴァプール近くのリンクス「ロイヤルバークデールGC」で開催された2008ジ・オープンは、昨年の覇者バドレイグ・ハリントンの勝利に終わった。
初日からあのグレッグ・ノーマンが活躍し、結局最終日まで優勝を争った。
グレッグ・ノーマンというゴルファーはアマチュアゴルファーでもシニアといわれる年代にとって、忘れられない。
確か若い頃日本のツアーでも何度か優勝していると思う。全英オープンにも二度優勝しているが、米国のメジャーには勝っていない。
53歳になったそのノーマンが、突然全英オープンで優勝争いをするのである。
「ホワイトシャーク」と呼ばれたその風貌は、今もそれほど変わっていない。むしろ昔より精悍になったように感じる。
ただ年齢を重ねた分落ち着きと風格が・・・などと思いながら応援する。盟友の青木功プロもノーマンの活躍を喜んでいる。
最終日三連続ボギーでスタートを切ったとき、プレッシャーに意外と弱い、若い頃のグレッグ・ノーマンを思い出してしまったが、今度は逆転したハリトンが三連続ボギーを出してしまって、これはリンクス特有の強風が選手を大いに悩ましているのだとわかった。
17番で放ったハリントンの第二打がピンに寄り、イーグルを決めて、これが勝利を引き寄せる決め手になった。
勝者ハリントンは、今年は手首の調子が悪く、練習ラウンドも少しだけ、体調が悪かったのが、かえっていい方に働いたと言っている。
ノーマンは、事業に忙しく、また最近結婚した妻とテニスをするので、ゴルフはそれほど・・・・などと言っている。
18番ホールで握手する二人の写真があったが、なぜか連続制覇のハリントンよりも、敗れたグレッグ･ノーマンの方に風格を感じたのは私だけだろうか。
（2008/07/22）

勝利の女神

マンシングウェアレディース東海クラシック。
最終日5アンダーとスコアを伸ばした不動裕理プロに、勝利の女神が微笑んだ。
上田桃子プロが、１７番３１１ヤードパー4で6ｍくらいのバーディーパットを決めて9アンダーとして一歩抜け出した。
しかし最終１８番の第２打をミスして右バンカーに入れてしまった。
左ラフからの第2打はやや前上がりで、フックを予想してのショットだったのか、しかし結果はフックせず右のバンカーに行ってしまった。
このホールをボギーとして、プレーオフになってしまった。
結果的には、この18番第2打で、勝利の女神に見放されたのかも知れない。
後から見れば、それほど試練を問われる重大なショットであった。
（2008/09/21）

勝利の女神　ダンロップ女子オープン

宮城県利府ゴルフクラブで「ミヤギテレビ杯ダンロップ女子オープンゴルフ」が行われた。
ゴルフで面白いのは、最終日の終盤に入って、これが優勝を決めたショット/パットだ、というのを見る瞬間です。
昨日の上田桃子プロの１８番、ドライバーは完璧に近かった。ナイスポジションから打った第２打もほとんど完璧。
ピン下1ｍ強についた。この時点で、この第２打が勝利の一打かと思っていた。
ところがこのバーディーパットを上田プロは決められなかった。
弱かったのか、芯をはずしてしまったのか、それが勝利へのプレッシャーだったのか、ボールの転がりに勢いがなかったように見えた。
いやな予感。先週のプレイオフでロングパットを決められて優勝を逃している。
しかし今回は、追いかける横峰、三塚両プロも自滅したり、伸び悩んだりしている。
結局18番でバーディーパットを決められなかったが、すばらしい2ndショットを見せた上田桃子プロに
「勝利の女神」は微笑んだ。
「勝利の女神」がすきなのは、我慢を続けてここ一番でのベストショット/ベストパットが打てる選手のようだ。
（2008/09/29）

勝利の女神　リコーカップ

LPGAツアーチャンピオンシップ・リコーカップは、劇的な逆転で古閑美保プロが勝利した。
古閑プロが17、18ホールで連続バーディーとし-6でフィニッシュしたとき、同位に不動裕理、トップに-8の全美貞がいた。
このとき解説の樋口会長は古閑を評して、最後まであきらめずにしっかりとトップと対峙している、と言っていた。
優勝すれば、逆転賞金女王が待っているのだが、トップの全美貞の調子から見てほとんど逆転は不可能で、
優勝は無理でも、最後まであきらめない姿勢を、「対峙」という言葉で評価しているように聞こえた。
だがゴルフは何が起きるかわからない。
その後17、18とトップの全美貞はスコアを崩していく。
18番ホールセカンドショット。不動の一打は1m強について、バーディーチャンス。
たぶんこの一撃が全美貞選手にプレッシャーを与えたのでしょう、彼女のセカンドは右バンカーへ、
そしてバンカーショットはいわゆるホームランとなって脱落してしまった。
不動選手はどうか。この優勝のかかったバーディーパット。距離は短いが難しい下りのスライス（？）ライン。
しっかり打ちすぎてか（？）突き抜けてしまった。返しをはずしてしまったのは痛恨のミスだと思うが、バーディーを決められなかった時点で
勝利の女神から見放されてしまったか。
結局勝利の女神はどの一打に微笑んだのか。
もちろん、古閑の18番のバーディーパットなのであろうが、不動の放ったセカンドの一撃も見過ごせない。結局打った不動に微笑まずに、真摯に対峙した古閑に微笑む結果となったのか。
本当にゴルフは最後まで何が起こるかわからない。
（2008/11/30）

全英オープン　初日の報道

2009全英オープン。
タイガーウッズと一緒に回った石川遼選手が、トップと4打差だとか、ウッズに勝った、だとか
いってマスコミがはしゃいでいる。
たしかに石川選手のプレーは立派だし、物おじしない態度は素晴らしい。初日の成績も称賛に値する。
しかし、本人はまだ先の長い道のりを考えてか、謙虚にふるまっているのに、まわりのはしゃぎっぷりにはどうも・・・。報道関係者の態度はどうもいただけない。
トップと一打差に日本人選手がいるではないか。
初日とはいえ、-5で二位に輝いている久保谷健一選手をもっと報じるべきではないのか。
バランスがとれていないよ。
TVでも新聞でもネットでも、二位をたたえた記事を探すのに苦労する。
かつて日本選手で好発進した、鈴木のりお選手、青木功選手、中嶋常幸選手、丸山茂樹選手などもっと
もっと報じられていたと思うのだが。
ゴルフニュースを伝える報道関係者が、全英オープンの本質を理解していないのだろうか。
（2009/07/17）

全英オープン　最終日

全英オープン　最終日。
初日から好調のトム・ワトソンは、オールドファンの期待を一身に集めながら、
トップで18番までやってきた。
何度も崩れかかる自身を、立て直しながら。
昨年のグレッグ・ノーマンのときもそうであったが、最年長優勝記録の期待もかかっている。
しかし結果的には18番,8アイアンのセカンドショットがグリーンオーバーしこれが敗因になってしまった。
9アイアンが良かったのかも知れないと、ワトソン自身が言っている。
1977年このターンベリーで開催された全英オープンで二クラスとの死闘を制したワトソンの記憶がよみがえったが・・・。
真昼の決闘を二度制することは出来なかった。
残念。
"Old fogy almost did it."
と最後に彼は言ったそうだが、そうだな、残念だったが、ここまでやれば勝ったも同然だ。
（2009/07/20）

今年（2011）の全米女子オープン

今年の全米女子オープンはコロラドスプリングスのブロードムアGCで行われている。

コロラドは西側はロッキー山脈で東側は平原になっているが、ロッキーの山裾はかなり標高が高い。コロラドスプリングスもデンバーもマイルハイの街といわれています。コロラドスプリングスの南側ロッキーの山裾にブロードムアGCがあります。

デンバーに住んでいた頃、I25を南へ2時間くらいのドライブでコロラドスプリングスへはよく行った。途中にはエアーフォースアカデミーやパイクスピークがあり、ガーデンオブゴッドやセブンフォールズなどの観光地もあります。

このあたりの夏は、日差しが強く紫外線が多い。サングラスがないと目がやられるような感じになる。暑いが湿気が少ないので日陰に入れば結構涼しい。

スカッとしたブルーの空が特徴ですが、雷雲が発生しやすく、晴れていても一転してスコールとなることが多い。また夏でもパチンコ玉大の雹が降ることもあります。（冬は時々パウダー状の雪が積もるが、それほど寒いという感じではない。）

今年のUS女子オープンを見ていても突然の雷雨で中断し、サスペンデッドになっています。

マイルハイのゴルフコースは、気圧が低いのでよく飛ぶといわれます。宮里藍選手も言っていたがドライバーなど長いものは5%、ショートアイアンは7%くらいの計算が必要といっています。さすがプロのとらえ方は緻密だと思う。

そんな中、予選ラウンド（二日目）を終わって、日本の宮里美香選手が－５で一位、宮里藍選手が－４で二位につけている。メジャーで日本選手が一位二位をしめるなんて、まだ２ラウンド残っているが、しかし驚きだ。二人ともUSLPGAを主戦場にしている。そうでなければ日本からポット来ていきなりUS女子オープンを戦うにはコースの壁が大き過ぎると思う。残り2ラウンドこの二選手に期待したい。

最新情報では、最終ラウンドを１３ホールでサスペンデッドとなり美香、藍遼選手はいずれもスコアをくずし＋３で暫定７位タイ、ソ・ヒキョン（韓国）が－３でホールアウトし暫定１位らしい。最後の戦いは明日に持ち越された。

（コロラドでは少し前デンバー近郊のチェリーヒルズCCで、確かUS女子オープンは開催された。そして90年代の初めごろ同コースでUSシニアオープンも開催されている。）

（2011/07/10）

コロラドスプリングスでの熱き女の戦い

マイルハイのコースで繰り広げられた熱き女の戦いは五日目のプレーオフとともに終了した。

４日目に－３で７２ホールを終えトップのソ・ヒキョンを、３ホール残してサスペンデッドとなったユ・ソヨンが５日目７２ホール目でバーディを決めて捕らえ、トップに並ぶ。

４日目に７２ホールを終えていたソ・ヒキョンと５日目３ホールをプレイし最終で追いつたユ・ソヨンでは流れが違っていた。７２ホール目にバーディを決めたときに、勝利の女神はユ・ソヨンに微笑んでいたのかもしれない。

優勝と二位は韓国勢が占めた。最近の韓国勢の活躍は日本ツアーでもすごいが、アメリカツアーでも同様です。日本選手も+1の宮里美香５位、+2宮里藍６位とベスト10に入り、メジャー制覇もそう遠くないように見えるが。

とにかくマイルハイでの、長き熱き戦い「US女子オープン2011」は終わった。VTRに映るロッキーの姿になつかしい思いを重ねた５日間であった。

（2011/07/12）

拝金主義の世の中

拝金主義の世の中になってしまった、とはある政治家の言葉である。
確かに世の中かねかね金、金がなければ負け組みで、金を持っているものが勝ち組。
いつ頃からこんな区分けが出来上がったのか。

珍しく雪が降った。それも周囲を白く覆い隠してしまうほど積もった。
世の中の汚いものも雪ですっかり覆われ一見きれいに見える。
それなりに気をつけていたのだが、露天の駐車場、一部凍結。
朝車を出そうとしてもスリップしてどうしようもない。
タイヤの周りの雪を取り、氷を削ってもスリップはとまらない。
エンジンをふかしていると、近くのおじさんが押しましょうか？といって手伝ってくれた。
本当に有難い。
少し押してもらっただけで、車は動いた。
後は慎重に運転して、大通りに出れば問題ない。

拝金主義になってしまったと嘆いたが、世の中捨てたものじゃないとの思いもする一瞬であった。
（2006/01/23）

アメリカの牛肉

アメリカって牛肉が安くてうまい。
かつて仕事でアメリカに住んでいたとき、牛肉の塊を買って、たしか３ドルとか４ドルとか払ったように思う。
日本のような薄切り肉なんてなくて、ステーキが何枚も取れるような肉のブロックである。
それをきって焼いてショウユとワサビ（カラシ）で食うと、結構うまかった。
バーボンとかテネシーウイスキーが良くあった。クアーズ（ビール）もスカッとして肉によくあった。
しかし今考えてみると恐ろしい。
ひょっとして俺の脳もスポンジ化が始まっている？
そのころは何も考えなかったが、今断片的に伝わってくる情報によれば、■アメリカの食肉管理はいい加減で、トレーサビリティが無い。
■アメリカの牛は草食動物から肉食動物（共食い）動物になってしまった。
■上流社会用の牛と下流社会用の牛があり、日本などへは下流用が輸出される・・・など。
■食肉業界の票はブッシュ政権を支えていて、日本が納得するような処置は政権の崩壊につながる。
こんな話・・・恐ろしい。
しかし今回の輸入ストップの事態をよくよくたどってみれば、国民の食の安全よりもアメリカの都合を優先した政府の考え方が見えて仕方が無い。
名画「マイダーリンクレメンタイン」にも牛の群れをカリフォルニアに運ぶシーンがあるが、このころのアメリカ牛はすこし高かったかもしれないが、うまくて安全であったにちがいない。
（2006/02/06）

真偽のほど

いわゆる堀江メールが本物か偽物かで国会が揺れた。
結果的に偽とされるメールを公表した民主党、を非難する声が多い。
しかしライブドアと自民党の癒着の疑惑は、ブログでネット上を飛び交っている。
野口氏の自殺？と沖縄開発事業と政治家、沖縄暴力団との関連。
はては安晋会と建築疑惑問題との関連も。
付け加えれば狂牛肉と政治家との関係にも及ぶ。
証拠を出せば権力で握りつぶされる、といった民主党代表。
メールの真偽などどうでもよい。
知りたいのは、そのうしろに広がる政官民の癒着の実態である。
新聞やTVで得る情報は作為的なものが多い。
一見ガセネタに見えても、そこから真実が垣間見えるものもある。
新聞もTVもいっせいに同じように民主党を批判するのではなく、疑惑を解明するという切り口から評論してほしい。そんな評論家が一人くらいいてほしい。
こうして権力が疑惑を握りつぶしてきた例は数え切れないのだから。・・・と思うのは私だけだろうか。
（2006/02/23）

いわゆる堀江メール。
どうやら偽のほうに傾いてきた。
マスコミや評論家はそろって民主党をたたき始めた。
いいじゃないか偽だって。
堀江と自民党の癒着疑惑は消えたわけでない。
しかしマスコミや評論家はまるで自民党の疑惑が消えてしまったかのようだ。
わからなかったとはいえ、堀江容疑者の手をあげてはしゃいだのは誰だったのか。
知らなかったで済ませようとする権力に、立ち向かうために使用した武器がたまたま偽だったのだ。
偽をつかんだ事に関しては、両者同じだ。マスコミも評論家も平等な目で論じてほしい。－－－と思うのは私だけだろうか。
（2006/02/26）

いわゆる堀江メールの真偽で、民主党の攻撃力がドンと落ちてしまった感がある。
■沖縄開発と野口氏の変死？
■ホリエモンを持ち上げて選挙を買った（勝った）自民党の責任
■ホリエモンと自民党との癒着
■耐震偽装と政治家の問題
■安晋会とヒューザーそれから野口氏の関係
■狂牛肉（BSE）の問題
■アメリカの牛肉業界とｐブッシュそしてｐｍコイズミの関係
■それから・・・それから・・・
国民が本当に知りたいのはこのような問題の真実である。
民主党がやらなかったら、だれが真実を追究するのか。
誰が真実にせまれるのか。
やがて権力に包み込まれて、忘れられてしまうのである。
そのことに比べたらメールの真偽なんてたいしたことでない。

(というよりも、100％信頼できるネタなんてそうあるものでない。）
マスコミも余り騒がず、大きな問題が忘れ去られないように工夫した報道をしてほしい。
・・・と思うのは私だけだろうか。
（2006/02/28）

フォーギブネス（ゆるし）

フォーギブネス（forgiveness)というプロジェクトが英国で始まっている、という新聞記事があった。
つまり罪を「許す」という活動である。
犯罪者が自分の過去、心理を洗いざらい語りつくす、ことから始まり、それがやがてはその人の心を癒すことにつながり、最終的には社会復帰に結びついてゆく。ということらしい。
つまり犯罪者を捕らえ刑務所に送り、最高刑では死刑に処する。というやり方は間違っているとはいえないが、やはり先進国的なやり方ではない。
どうしたら罪を許せるか。罪を許して社会復帰させれるか。を考え実践していくのが先進国の役割なのでしょう。
1980年代にいわゆる英国病にかかって凋落ぎみだった英国だったが、こんなニュースを見るとやはり立派な先進国なのか、と思う。
10年ほど前あのクリント・イーストウッドがアカデミー賞を受賞した「許されざる者（アンフォーギブン/unforgiven)」という映画があったが、フォーギブネスという考え方とこの映画のタイトル「アンフォーギブン」という考え方とどう結びつければいいのか、と思ったりする。
（2006/04/18）

ジダンの頭突きが教えるもの

もう古くなってしまったが、ジダンの頭突きのシーンが何回もTVに流されたときがあった。
名誉を傷つけられて、我慢が出来ずに頭突きという暴力を振るってしまったが、本人は後悔していない。我慢できないことを聞いてしまったのであろう。
あの時大抵は、ジダン擁護派であったように思う。
フランス人も大部分が擁護派で、自分もそうだったと思う。
ところが、サッカーなんか挑発的なヤジは当たり前で、そんなことに腹をたてて暴力をふるうなんて
まるで相手の思う壺で、それみろ退場させられ、肝心の試合は負けてしまったではないか。
相手の戦略に乗ってしまったジダンはバカだ。・・・という否定派がいろんなブログを読んでいると結構いた。
アメリカだって、イラクの大量破壊兵器があるかのような挑発に乗って、先制の攻撃を仕掛け、今なお問題が解決できていない。
北朝鮮の執拗な挑発にのって、同じようニッポンも先制攻撃をするというのか。
ここまで考えると、やっぱり暴力を振るったジダンが悪い、バカだということになる。
戦略的な挑発に乗って、我慢できずに暴力を振るってしまい、勝てるゲームを棒に振ってしまわないよう考えねばならない相手はニッポンの周りにもたくさんいる。
（2006/07/21）

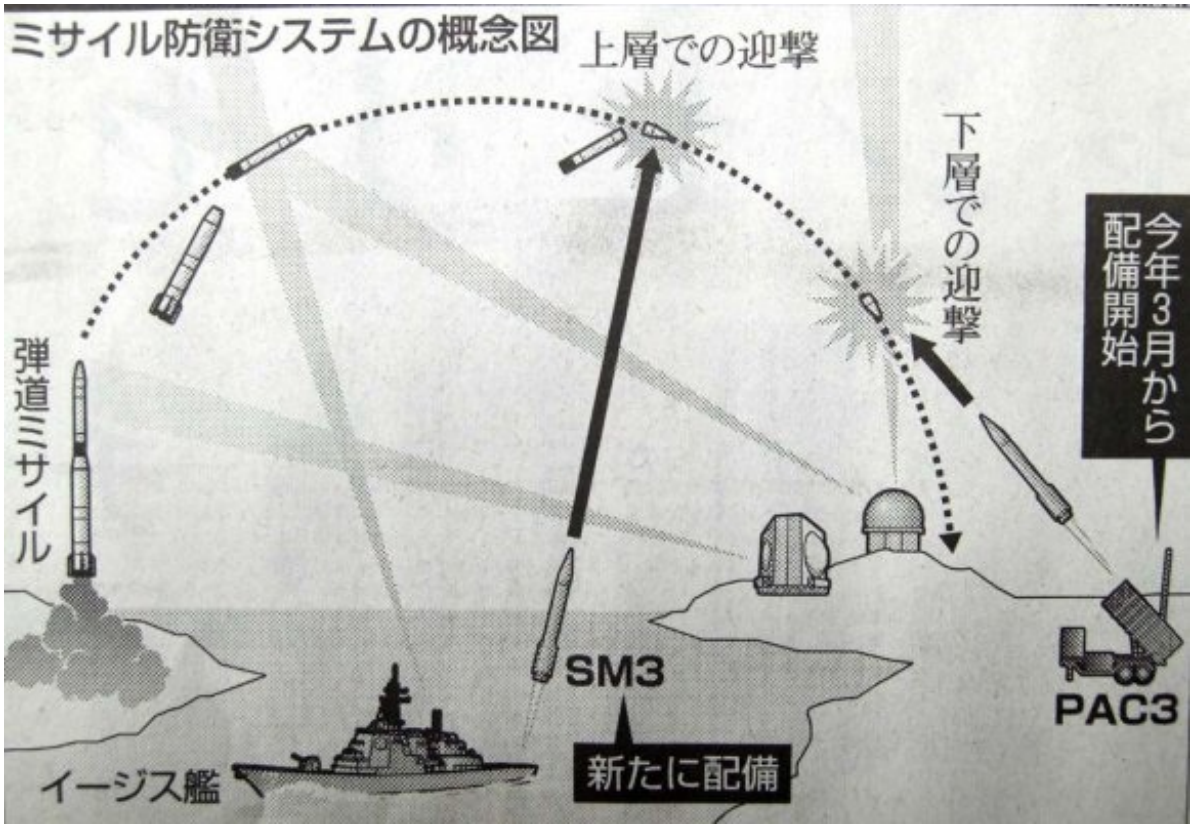
最近話題になっている「核問題」について

最近話題になっている核問題。
核について議論してはいけないのか？
そして憲法改正の問題。
核兵器の撲滅と核技術の平和利用をうったえた科学者達は、
ラッセル・アインシュタイン宣言として1955年に世界に発信した。
宣言の少し前にアインシュタイン博士がなくなっているので、
この宣言はアインシュタインの遺言状ともいわれている。
1975年には湯川・朝永宣言が、唯一の被爆国日本から
世界に向けて発信されている。
核科学の基礎を研究した世界の科学者達が、自分たちの
思惑とは違った方向に進む核技術の現状と将来を憂いて50年以上も前から
核兵器撲滅の運動をすすめているというのに。
唯一の被爆国日本が核を議論するというのなら、ラッセル・アインシュタイン宣言と
湯川・朝永宣言をかみ締めるところから始めたらいい。
憲法改正するというのなら、上記の二宣言を織り込むように改正すればいい。
科学や技術を少しでも理解できる人間なら、あるいは被爆国としてその悲惨さ
を経験した日本人なら、誰でもそう思う。・・・と思う。
「人類と核兵器の共存はあり得ない。」と考えた偉大な科学者達の思いを
今こそ復習すべきだ。・・・と思う。
（2006/11/07）
上記に関連して「ウィニー開発者有罪」のニュース。
Winny開発者に京都地裁で有罪判決が下されたと言うニュース。
この開発者がどんな意図で持ってWinnyを開発したのか、詳しくは知らない。
しかしこのソフトを使用して、音楽ファイルなどがコピーされ、無料で使用される
という著作権法違反に関わる問題を野放しにするわけにもいかない。
例えば高度な印刷技術を開発して、それが開発意図とは関係なく、偽札つくりに
使用されてしまった場合、などとよく似ている。
火薬（ダイナマイト）の技術が戦争に使用され、多くの人命が失われる。
核理論の研究結果が核兵器に利用され、世界の平和を脅かす結果となる。
それでノーベルやアインシュタインが罪を負わねばならないのか。
悪用した者を罰するべきでしょう。
開発者がその技術が将来どんな使われ方がされるか、予測したとしても
実際はその予測の範囲をこえて使用されることは珍しくはない。
Ｗｉｎｎｙだってその本来の技術は、有用に利用されるべきものであったはずです。
ハッカーと言われる人達でさえ、その技術を有用利用され、陰から陽のあたる場所
に登用されることがあるというのに。
これでは技術開発に携わる人たちの意欲が、損なわれるような気がする。
マスメディアも賛否両論だが。
（2006/12/14）

清濁あわせ呑む。

清濁あわせ呑む。
談合汚職で捕まった和歌山県の木村前知事が、裁判後に「政治は清濁あわせ呑むものと誤解していたところがあった」などと述べている。
改革派知事として当選しながら、濁流を呑まざるを得なかった複雑な思いがそう言わしめたのか。
確かに政治家や経済人の中には、表面は筋を通しながら（清流を呑みながら）裏では不正をはたらいている（濁流を呑む）人が多い。
自然に流れる川には清流もあれば濁流もある。
濁流はそのまま呑むのではなく、フィルターをとおして清流に換える必要がある。
あるいは濁流の発生源をつきとめて、濁流を流れないような改革改善が必要である。
情報公開といわれるのは、清も濁も民の前にさらけ出し、浄化や改革を進める工程を民の目にはっきりと見えるようにすることだ。
古い政治家は清濁あわせ呑んだが、今は濁を呑むのではなく、すべて公開し、浄化の過程をさらけ出すという新しい手法が政治に求められている。
地方政治でも国政でも、そんな政治がおこなえる新しいタイプの政治家が必要だ。とは思うがなかなか選挙の結果で明確に示し得ていない。
（2007/04/12）

つでに「海上配備型迎撃ミサイルの話」を付け加えておきます。
この物々しいタイトルは一体何なのか。
防衛省は弾道ミサイルを打ち落とす迎撃ミサイル（SM3）を、イージス艦に搭載するらしい。
たとえば北朝鮮からアメリカ大陸に、あるいは日本に向けて発射された弾道ミサイルを狙って、海上からSM3を発射して大気圏外で打ち落とすことが出来るらしい。
この迎撃実験が日本のイージス艦「こんごう」を使ってハワイ沖で行われるということだ。
もし失敗した場合、弾道ミサイルが目標に着弾するまでに、地上に配備された迎撃ミサイル（PAC3）で打ち落とすというシステム。
PAC3はもうすでに日本に配置されているということだ。
迎撃ミサイルには核弾頭は必要ないのだろうが、必要なら搭載可能のはずだ。
非核三原則が知らぬ間に切り崩されていく。
弾道ミサイルの技術は、宇宙開発の技術と同じだ。
兵器ではなく平和利用を節に望む。（2007/10/13）
(下図は朝日新聞10/13より）


ミサイル防衛システムの概念図
上層での迎撃
下層での迎撃
今年3月から配備開始
弾道ミサイル
SM3
新たに配備
PAC3
イージス艦

愛国心とは

愛国心とはなにか。
日本は侵略したのではない。
誘導されて戦争に走った。
あの戦争は侵略戦争だというのは、濡れ衣だ。
日本は悪い国か？
日本は良い国だといったら、首になった。
・・・・・・などなど。
田母神氏の発言が幕僚長を辞めてからも続いている。
単純明快に話す彼の言葉や文章に、つい引きずり込まれそうになる。
TVやwebなどでも、彼に賛成する意見はかなり多い。
――――――――――――――――――――――――――――――――-
だけどやはり間違っている。
そうじゃないだろう。そこがおかしいんだ。などと思いながら、
webを見ていると、私の気持ちを代弁してくれているような文章を
あのジャーナリストの江川紹子さんが書いているのがわかった。
これ以上のことは書けないが、まったくその通りだと思う。
（2008/12/13）
田母神発言・その単純明快さが危ない
歴史と愛国心について考える～田母神氏の記者会見に行って

ドバイは砂上の楼閣か

何でも世界一をキーワードに、発展いちじるしいアラブ首長国ドバイ。
つい最近まで脚光を浴び、世界の注目の的となっていたドバイ（Dubai）。
原油高の恩恵を受けてオイルマネーが流れ込んで、型破りの発展を成し遂げるかに見えたドバイ。
行ったことはないのでなんともいえないが、自国で石油が採れるわけでもないし、海を埋め立ててまで派手な開発をし、
生産性のあるものを造るでもなし、必要以上に高いビル、高価なビルを建設する、など聞いていて大丈夫かなと疑いを持つ。
・・・・と思っていたら、案の定バブルがはじけた。
最近では、不動産価格は下落し、開発計画は途中でストップしているともいう。
「ドバイは誰もが利益を上げられ、夢を実現する場所」などともてはやされたが、 金融危機の煽りを受け、バブルの終焉となったのか。
砂上の楼閣、バベルの塔となってしまったのか。（2008/12/18）

オバマ大統領の誕生

アメリカにオバマ新大統領が誕生して、少しあるいはかなり時間が経過した。
最近「日本にオバマは生まれるか」という横江公美さんの新書を読んだ。
その中で注目の箇所を以下にメモしてみよう。
■アメリカ合衆国の完成
民主主義を掲げるアメリカで、奴隷の歴史は汚点である。
アフリカ系のオバマを大統領にすることで、理想の国アメリカを完成させたい気持ちが国民にあった。
■理想の国アメリカを定義した名演説「リベラルのアメリカも、保守のアメリカもなく、ただ「アメリカ合衆国」があるだけだ。
黒人のアメリカも、白人のアメリカも、ヒスパニック系のアメリカも、アジア系のアメリカもなく、ただ”一つのアメリカ”があるだけだ」
■シカゴ（イリノイ州）は黒人の歴史と深い関係がある。南部に住んでいた黒人奴隷は自由を求めてイリノイ州を目指した歴史がある。
■リンカーンもスプリングフィールド（イリノイ）で奴隷開放宣言した。
■ミッシェル夫人もシカゴのサウスサイド地区出身。オバマ自身もここでコミュニティオーガナイザーをしていたことがある。
■ハワイ出身のオバマが全国で人気を得る下地がこの頃から作られていた。
■徹底的なネット戦略がとられた。
■ネットに登録したものが、仲間と連絡し、議論できるようなミニコミュニティがつくれる仕組みがあった。
■＄500献金もグループで集計されていった。
■集められたメールアドレスは個別訪問以上に有効使用できた。
■大統領選挙は候補者にとっても、有権者にとっても、格好のオンザジョブ教育であり、双方とも次第に成長していった。
■アメリカではかなり前から政治家の演説は文章化されて、データベースに残る。
■だから演説は口から出る一瞬の言葉としてでなく、ながく記録に残される文章のイメージと政治家は思っている。
■いくら優秀なスピーチライターがいても、政治家自身に中身がなければ、演説は人々の心をとらえない。
■どの国の若者も政治に参加したいと思っている。
■共感する政策と言葉のある政治家が登場すれば、しがらみの無い若者こそが政治に参加するでしょう。
■そうなれば、日本にもオバマが誕生する可能性が出てくる。
（2009/03/05）

追記：共感する政策と言葉のある政治家というハードルはかなり高い。最近の民主党代表選（２

０１１）をみても、若者を引き付けたオバマ大統領のような演説の出来る日本の政治家はいない。最もそのオバマも落日のアメリカに悩んでいる今日だが・・・。
（2011/09/07）
追記：オバマ大統領も今年（2012）２期目を向かえるための選挙をひかえている。かつてのような爆発的人気に陰りがみられる。日本の民主党も総理が入れ替わり近いうちに総選挙があると言われている。（2012/09/12）

プレゼン力

プレゼンテーションの上手な人とは。例えばあの人の話はよくわかるとか、説得力があるとかいわれる。ある種のコミュニケーション力なのか。熱意や情熱のことなのか。リーダーシップに関係するのか。話を聞いた後で、なんとなく納得し、共感を覚え、その気になったとするならば、その話し手はプレゼンテーションの上手な人なのでしょう。

IT業界ではアップルのJ氏やソフトバンクのS氏のプレゼンの上手さは万人の認めるところですが、そのS氏が、民主党の会合で「震災復興に向けて」と題した講演を行っているのをustreamでみる機会があった。それは静かな現状認識から始まった。

原発の占める割合から世界の原発の発電量、実はピークは１９８０年代に終わっていて現状を維持しようとするとバンバンと新しい原発を作り続けなければならない。それは世界的にみると平均２２年で廃炉になること。４０年以上使用する例は珍しいこと。さらには原発のコストは安いという古い数字があるが、実際はコスト高であることなどプレゼン資料をもとに熱弁をふるう。

S氏のプレゼンのうまさは、その独特の話口調もあるが、大きな視野からみて作成されているわかりやすい資料に負うところが大きい。資料を見ながら話を聞いていると、たいていは話の流れに乗ってしまう。世界の原発による発電量の推移のグラフをみると、以後原発を積極的に新設する意味はもはやないという気になってくる。

最後に新規提案に入っていきます。これがないと単なる話で終わってしまいます。S氏自身やソフトバンクとしての支援体制から始まって、新エネルギー産業を東北から始めるという壮大な提案を資料を使って説明していきます。

古いタイプの政治家は、聴き心地の良い言葉を並べて回りくどくこれでもかこれでもかと話します。今流のプレゼン力のある人は直接的な言葉で、わかりやすい資料を使って明快に話します。当然後者の説得力に軍杯が上がるでしょう。

S氏の高いプレゼン力は、写真やグラフや数値を用いたわかりやすい資料と、めりはりのきいた話口調、時には自分の思いをぶつける情熱によるものでしょう。それが聴く人の気持ちを捕まえるのでしょう。

わたしも人間力のある政治家はいないというような文章を過去に書いたことがありますが、プレゼン力（ある種のコミュニケーション力ともいえる）は人間力の構成要素の一つだと思います。リーダーに必要な大きな要素でもあります。人間力のある政治家、プレゼン力のあるリーダーの出現が今最も期待されていることでしょう。

（2011/04/25）

ミツバチの羽音と地球の回転

「ミツバチ・・・・」を見る機会があった。これは未来のエネルギーをどうするか、をテーマにしたドキュメンタリー映画です。

瀬戸内海に祝島という小さな島があって、その対岸に上関原発をつくる計画が３０年ほど前から始まっている。しかし住民の反対運動のためまだ建設にいたっていない。強引に進めようとする政府と中国電力と漁場や農地への影響を考えて反対する住民の姿を描いている。

原発には反対する住民を金と雇用をちらつかせ、安全を前面にだして強引に説得してきた歴史があるのでしょうが、福島から後は同じようなやり方では住民を納得させられないだろう。

スエーデンを取材して再生可能エネルギーへの取り組みを紹介している。自然エネルギーへのシフトは自然と共振し、エネルギーを生み出すミツバチのようだというところにこのタイトルこのタイトルの所以がある。

福島後、日本はエネルギー問題は最優先課題であり、先送りはできない。スエーデンなどヨーロッパにその手本がある。

（2011/06/19）

原発は本当に必要なのか？

わたしたちは電気がなければ近代的生活は続けられない。オール電化という言葉は最近あまり耳にしないが、オールでなくても電気のない生活は考えられない。原発は反対だが、停電はいやだ。という矛盾する論理を実は最近まで私自身も持っていた。今度の福島原発事故が起きるまでは、むしろ原発推進派であった。それがこの事故によって、原発についての知識を積み重ねるにつれて、脱原発の考えを強くするようになってきた。最初にあげた「原発反対、停電いや」という矛盾もどうやら矛盾ではないようだというようにも思えてきた。

いくつかの重要な項目を書き出してみる。これは福島原発事故以後知りえた情報をもとに、考え続けていることです。

１：「絶対安全」神話と過疎地に建設する矛盾。事故は必ず起こるし、放射能の影響（危険度）は計り知れない。それも破滅の可能性さえ持った危険度です。

２：原発は無くても、他の方法で需要電力は賄える。（細かい問題はあるが、解決可能だろう。）

３：原発はコストが安く、効率がよいとされてきたが、じつはコストが高く、効率が悪いという事実。（エコではない。）

４：　２２年くらいで廃炉にしなければならない（圧力容器劣化）。世界的にみても原発建設の時代はすでに過ぎている。（欧米では’７０年代半ばがピーク）

５：ウランの核分裂によって出来る生成物（死の灰）の処理が厄介である。化石燃料発電はCO2を発生させるが、CO2は地球にとって必要なものである。しかし核分裂によって出来る死の灰はとてつもなく有害だ。

６：プルサーマルや高速増殖炉は普通のウラン原子炉よりも複雑で厄介な問題をひめている。

７：使用済み燃料処理（六ヶ所村など）など発電以外の問題が多い。

８：発電時にはCO2を出さないが、燃料加工や廃物処理にCO2が発生する。（クリーンという表現は適切でないという事実）

９：原発を増やさずに、自然エネルギー発電に力を入れるほうが正しいと思える。

１０:現代はエネルギー過剰消費の時代になってしまった。1/3のエネルギーでもっと幸せに生きられるはずだ。

１１:低線量効果というのがあって、少量の放射線は健康に良いという話。ラドン温泉などの例もあって理解はできるが、低線量とはどんなレベルなのか。例えば①広島長崎②チェルノブイリ③スリーマイル島④今回の福島⑤通常のレントゲン撮影⑥地球上の放射線量の高い地域などを同じ線量単位で並べてみて比較しないと話はややこしい。つまりどの程度が安全で、どの程度が危険なのか・・・数字とグラフで理解したい。

エネルギーシフト

岩上安身氏の民主党川内博史議員へのインタビューをUSTで見た。

川内議員は小沢グループで今の菅総理を積極的に支えているわけではないのだが、脱原発派に間違いない。菅総理の再生可能エネルギーへのシフトについてだが、それは原発推進派も再生可能エネルギーを否定しているわけではないという。本当に脱原発を掲げるなら次の三つは必要と言っている。

短期的には①原発に替わるガスコンバインドLNGと②自家発電を推進する。そして中長期的には③再生可能エネルギーを進める。

③だけとなえて、原発の再稼働を容認する菅政権のやり方では、原発への依存度は決して減りはしない、という。それは菅総理のパーフォーマンスだととらえれても仕方がないところか。

脱原発となると、原子力村（原子力の研究者はじめ原発に関係する人材）はどうなるのか。原子力村の仕事は④発電と⑤使用済み核燃料の処理技術の確立がある。④が無くなったとしても、⑤は解決しなければならない重要技術であって、世界が求めているものである。日本の技術力を世界に示す分野にできる、と前向きに考えねばならない。

東電や関電と違って、中部電力は競争があるためか、安易な電気料金の値上げはし難いらしい。自家発電との競合があるらしい。もうすでに電力の自由化が始まりつつあるということらしい。（2011/06/30）

紀ノ川SA　ソーラーシステム

阪和自動車道の和歌山への入口にある紀ノ川SAの山の斜面にキラキラ輝くソーラーセルが設置されているのに気が付いた。

この太陽光発電でSAの電気を賄っているのだろうが、この発電システムが稼働し始めたのはおそらく最近のはず。そしてあの震災前から有った計画がねられて来たのだと思うし、そこに大いなる先見性を感じる。

エネルギーシフトの方向性を政府が明確に示すべきだし、エネルギーシステムの見える化というか、すでに実施のものも含めてシステムの合理性を実施側がもっとＰＲすべきだと思うのだが。（2011/06/27）

本線
THRU TRAFFIC

あとがき

１０年来書き続けているブログを振り返ってみて、あらためて時代の流れを感じます。
今だけを見て生きるのも、それはそれで良いのだろうが、自分が何を思ってきたのか、何を考えてきたのか、少し振り返ってみるのも悪くは無い。
2012現在竹島や尖閣で領土問題が熱を帯びている。
アメリカも大統領選挙をひかえている。
3.11福島原発事故の諸問題、エネルギー問題の解決の糸口が見つからない。
単なる忘備録のつもりのブログから、少しは未来のことが見えてこないだろうか。
５年後同様にブログを振り返ったとき、希望のある未来が見えてくるのだろうか。

奥付

ふと振り返った時に・・・　when i just looked back.....

http://p.booklog.jp/book/33419

著者 : hiromum
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/hiromum/profile

参考：ヒロ・マツシタの迷人スペース/ブログ
http://hirohiro007.wordpress.com/

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/33419

ブクログ本棚へ入れる
http://booklog.jp/item/3/33419

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社ブクログ